



STYLE67/ADOBE

# **GDPR への道のり**

# GDPR 対応への行程を綿密に計画

GDPR 対応は極めて重要であり、ビジネスの必須事項ですが、多くの企業はこの複雑なコンプライアンス要件に四苦八苦しています。IBM Cloud はこれらの課題への取り組みを支援することができます。

**2**018年5月25日の一般データ保護規則 (GDPR: General Data Protection Regulation) が施行されます。企業は、EU データ主体の個人情報取り扱いの厳しい要件を満たす戦略を立てる必要があります。

多くの企業は、GDPR 準拠要件への取り組みに四苦八苦しているかもしれません。そのプロセスは確かに複雑です。既存のデータに関する法令に準拠している企業にはさらなる責任がのしかかり、GDPR がもたらす新しい指針下では、企業文化と技術的要件の両方を変えることが必要になる可能性があります。GDPR は人材、プロセス、テクノロジーに影響します。

この新しい規制は、EU に所在しているかどうかに関係なく、EU 内でデータ主体を保持するすべての企業に適用されます。有料または無料の商品化サービスを提供している場合、または個人データを収集、ホスト、管理、または処理していれば、この規制を履行する必要があります。サプライヤーもリスクを最小限に減らすために、パートナー企業が GDPR に従うものと見なしているでしょう。

GDPR 対応は非常に重要であり、ビジネスの必須事項です。違反に対する罰金はかなりの額で、最大 2000 万ユーロまたは前年の収益全体の 4% (どちらか大きい方) にもなり、施行後の段階的実施の猶予は設けられていません。罰則の執行は施行初日から実施される可能性があります。評判失墜のリスクは、罰金の脅威と同じくらい大きな損失となるかもしれません。

**既存のデータに関する法令に準拠している企業に、さらに責任がのしかかります。GDPR は人材、プロセス、テクノロジーに影響します**



つまり、個人データの扱いはこれまでのようにはいなくなりました。企業には、どのようなデータがどこにあり、誰がアクセス権を持ち、それにはどのような正当な理由があるかを把握することが求められます。

### データ処理のルール

GDPR が要求する合法性と同意の条件を満たさなければならないということは、所定の条件 (同意、必要性、法的義務、保護、公益、公的機関または正当な利害関係) の 1 つを満たさないと、データを処理できないということを意味します。

EU データ主体と識別できるデータを扱う企業は、データを扱うための適切な許可と明確な手順を持っている必要があります。これは業務単位だけの話だけでなく、組織全体に浸透させる必要のあることです。

IBM Cloud はこれらの課題を解決できるように支援して企業の GDPR プログラムをサポートすることで、データの保管場所の可視性と透明性を高め、データのプライバシーとセキュリティの要件を強化します。

EU データ主体に対して強化された行動権を含む GDPR の主要原則を理解することが必要不可欠です。そのような行動権には、個人が企業に対し、データを削除することで (金融取引など法的に保持する必要があるデータを除く) 自分のことを「忘れる」ように要求できるという、抹消の権利が含まれます。データ可搬性の権利により、個人は自分の個人データを取得して、様々なサービスの目的のためにそのデータを再利用できます。使用を妨害されずに、ある IT 環境から別の IT 環境へと個人データを容易に移動、コピー、転送できます。

データの保管、保護、取得のあり方は様変わりするかもしれませんが、それと同時にこの規制は、データを利用して効率性と革新力をアップさせる機会にもなります。

### 負担を上回る機会

GDPR 対応はお客様にもビジネス・パートナーにも等しく競争上の優位性をもた

**個人データの扱いはこれまでのようにはいなくなりました。企業には、どのようなデータがどこにあり、誰がどのような正当な理由でアクセス権できるのかを把握することが求められます。**



らすものであり、これを単なる義務ではなく、機会として捉えるべきだと IBM は考えます。ライフサイクル全体を通じたデータの透明な管理、ローカル・ドライブ、中央ストレージ、バックアップ、またはアーカイブに何のデータがあるのかを把握することは、データが企業の資産になる中、商機を特定する助けになります。

透明性は、GDPR 履行を満たす上でも有益です。データ漏洩があった場合、企業はわずか 72 時間以内にデータ漏洩の範囲を特定し、影響を受けた相手と規制当局に通知しなければなりません。

IBM のクラウド・アーキテクチャー GDPR リーダー、Fabio Benedetti は、IBM Cloud を採用すれば、GDPR 要件を満たし、データの取り扱い方に対する可視性の欠如といった問題に対処できると言います。

「企業は、データの所在場所、データがどこに保管されているのか、データの処理を第三者に委託した場合、ほかの誰がそのデータにアクセスできるのかについてしっかり把握して安心したいと考えています。IBM Cloud は明確なポリシーを利用して、データの保管場所とアクセス権限の付与について明確な境界線を設定するので、企業はデータのアクセスと保管場所を完全に可視化し、理解することができます」と言います。

IBM の 5 段階フレームワーク (評価、設計、構築、運用、管理・監査) は企業の GDPR 対応への道程をサポートできます。

GDPR 対応への初期段階にあって、データの特特定と要件・プロセスの対応付けが必要に企業には、GDPR のグローバル・ビジネス・サービス (GBS) を通じてコンサルタント・サービスを提供できます。IT インフラストラクチャー編成に関するこの詳細な分析で、GDPR 対応への道程を加速化できます。

対応評価は、データの保管場所 (構造化データと非構造化データの両方をカバー) とデータの管理方法の検証を促進します。行程表があれば、リスクを特定して、対策を講じ、優れたプラクティスとイニシアチブの開発をもっと先に進めることができます。IBM の GDPR 個人データ検出用のアクセラレーター・ツールを使用すると、機密データと個人データの検出プロセスを推進できます。

包括的なデータ・マップを使用すると、GDPR 施行に向け、4～6 週間程度で内にデータ主体アクセス要求を履行できます。さらに、個人データ検出用のツールを使用すれば、個人データが自社でどのように利用されているのかが明確にわかるので、GDPR 第 30 条で要求される「データ処理活動の記録」を文書化し、維持することができます。

## 明確な管理

どのようなステップを踏んだらいいのかを明確に掴んだら、IBM Cloud がデータを保管、処理する機会を提供します。

企業はデータの管理者として、規制への準拠に対して最終的な責任を負いますが、IBM Cloud はデータの編成と処理を支援できます。

IBM Cloud は、EU のクラウドデータ保護行動規範 (Cloud Data Protection Code of Conduct) にいち早く対応して、データのプライバシー、セキュリティ、情報ガバナンスのニーズについて不安を抱えている企業に安心感をもたらします。

「データ保護の業界標準を定める組織によって明確に定義された、主要なプラクティス、プロセス、技術的コントロールがあり、IBM はこれらの業界標準を利用して、お客様の GDPR の行程をサポートします」と Benedetti は言います。GDPR 履行に向けて対策を講じている多くの企業にとって、EU 内にデータがあることが大きな心配になっていますが、IBM Cloud には包括的な欧州クラウド・データセンター・ネットワークがあり、欧州中にクラウド・データセンター拠点 16 箇所擁しているのです、どうかご安心ください。

**IBM の GDPR 対応評価は、IT インフラストラクチャーがどのように編成されているのかを詳細に分析して、GDPR 対応への行程を加速化します。**

「IBM Cloud は、データのセキュリティー、データの完全な認証、アクセス制御、監視をサービス・レベルで管理するので、企業は個人データがどこに存在するのかを把握することができます。問題を解決するためアクセス権が付与されない限り、EU 地域外から顧客データにアクセスすることはできません」と Benedetti は言います。

企業は、個人データの保管場所とデータが処理される場所について完全にコントロールし、把握することができるので、データ転送に伴うリスクが軽減されます。

## 安心できる暗号化

Benedetti はこう言います「さらに EU 企業にとっても安心な点があります。GDPR 履行に直接関係ない取引データや業務データも、IBM Cloud を使って保護されるからです」

「お客様の観点では、暗号化とハードウェアのセキュリティーとその位置、GDPR 準拠の非常に重要な要素であり、IBM Cloud を利用すれば、これら両方の点で安心感を得られます」

IBM Cloud とそのデータ・セキュリティー・プラットフォームは、機密データがどこにあっても安全に保護し、幅広いデータ保護機能を提供します。

暗号化と匿名化の技術はデータのリスクを最小限に抑えます。GDPR は企業が講じるべきセキュリティー対策を規定していませんが、これら 2 つの制御機能について言及しています。GDPR では、個人データがそのデータへのアクセス権のない者にとって理解不能にされている場合、データ主体の漏洩を通知する必要がないと定められているので、これらの技術は重要です。

データは、IBM Cloud の強力な機能により漏洩から保護されます。これらの機能には、高度なワークロードのセキュリティー、暗号化を実現するセキュアな仮想化、データを不正使用から保護するマルチクラウド・データ暗号化、保管中の機密データを暗号化し、データの暗号化に使う暗号鍵のライフサイクル全体を容易に作成、管理できる主要な保護機能が含まれます。

クラウドベースのハードウェア・セキュリティー・モジュール (HSM) は標準装備され、組織の規制要件をサポートしてデータ・セキュリティーのガバナンスの実現を支援します。

## 検出、分類、保護

その一方で、統合データ分類機能を使用すると、保管場所がクラウドかデータセンターかに関係なく、最重要の個人データを検出、分類、保護できます。

企業は IBM Cloud を利用して、GDPR 対応の準備を進めることができます。GDPR の原則への対応をより確実に証明し、「あらかじめ計画的に保護するプライバシー」の指針を守ることができます。

GDPR の最新の指針では、プロセスとツールが技術的な進化に遅れないように継続的なリスク評価を実施することが定められており、IBM Cloud は計画的なプライバシー保護への遵守に取り組んでいます。特に個人データ保護に求められる要件を最初から抑えられるように支援します。

GDPR 対応は一夜にして達成することはできませんが、差し迫った対応が求められます。IBM Cloud は「免疫システム戦略」を提供して個人データ保護を助けることで、GDPR 対応への道程を加速化できます。

IBM Cloud に移行すると、GDPR の履行、および罰金と評判の損失が生じる潜在リスクの軽減に向けて支援を得られるので安心です。また、データの新たな利用方法を見つけ、信頼を促進できるので、欧州とのビジネスで優位な立場に立つことができます。

**「お客様の観点では、暗号化とハードウェアのセキュリティーとその位置、GDPR 準拠の非常に重要な要素であり、IBM Cloud を利用すれば、これら両方の点で安心感を得られます」**

IBM, Fabio Benedetti

IBM 独自の GDPR 対応への行程、およびコンプライアンス準拠までの段階をサポートする GDPR 機能と製品・サービスの詳細については、[こちらをクリックしてください](#)。■

**通知:** お客様は EU 一般データ保護規則など、さまざまな法律や規制を確実に遵守する責任を負います。お客様は、自社の事業に影響を及ぼす可能性のある、関係する法律や規制の特定や解釈、およびこれらの法律や規制を遵守するために必要となる対応について、資格を持った弁護士の助言を受ける責任を単独で負います。本書に記載されている製品、サービス、およびその他の機能は、すべての顧客の状況には適しておらず、利用が制限される可能性があります。IBM は、法律、会計または監査上の助言を提供することはいたしませんし、また日本 IBM のサービスまたは製品が、お客様においていかなる法を順守していることの裏付けとなることを表明し、保証するものでもありません。



EU データ主体と識別できるデータを扱う企業は、データを扱うための適切な許可と明確な手順を持っている必要があります。これは業務単位だけの話だけでなく、組織全体に浸透させる必要のあることです

PAVLO VAKHRUSHEV/ADOBE